

八 臨時仮名遣調査委員会で述べ

られた意見 (明治四十一年六月)

大槻文彦

明治四十一年五月に文部省の諮問した「仮名遣ノ件」を審議するために開かれた第二回臨時仮名遣調査委員会(同年六月十二日)で、仮名遣いを改定することに賛成の立場から述べられた意見。大槻文彦(一八四七—一九二八)は国語学者で、『言海』の編者。国語調査委員会委員、臨時仮名遣調査委員会委員。

所収の本文は、文部大臣官房図書課『臨時仮名遣調査委員会議事速記録』(明治四十一年一月)によった。次項(九)も同じ。

時代ヲ経テ言葉が変ハレバ発音ガ変ハル発音ガ変ハレバ文字ヲ書変ヘルト云フコトハ自然ノ道理デゴザリマス、現在日本モ昔ハ其通りデ、奈良ノ京ガ山城ヘ遷リマシテカラ発音ガ変ハリマシテ皆発音ノ儘ニ書キ変ヘテ居リマス、先ヅ「カキヤル」ヲ「カイヤル」、「白キモノ」ヲ「白イモノ」、「サキツコロ」ヲ「サイツコロ」、「キサキノミヤ」ヲ「キサイノミヤ」ト云フヤウニ「キ」ヲ「イ」ト書変ヘテアリマス、「マシテ況ヤ」ヲ「マイテ

況ヤ」、「アラハシタマフ」ヲ「アラハイタマフ」、「寒ク」久シク「ヲ」サムウ「久シウ」、「タタミガミ」ヲ「タタウガミ」、「キミタチ」ヲ「キンダチ」、「アラム」ユクラム「ヲ」アラン「ユ克蘭」、「カカフリ」ヲ「カウブリ」、「タマハル」ヲ「タウバル」、「ハシル」ヲ「ワシル」、「ハツカニ」ヲ「ワツカニ」、「テミズ」ヲ「テウズ」、「ベカルメリ」ヲ「ベカンメリ」、「マキヅル」ヲ「マウヅル」、「マラス」ヲ「マウス」、「イカズテ」ヲ「イカデ」トカヤウニ総テ書変ヘテアリマス、斯ウ云フコトハ無数デアリマス、ドウシテ斯ウ云フコトガ起ツタカト申シマス、自然世ノ中ガ忙シクナリマスルノデ発音ノ便利ヲ図ル為ニカウナツタト云フ説デ之ヲ音便ト申シマス、併シ又或学者ノ説ニハ世ノ中ガ段々開ケテ来テ礼儀ヲ尊ブ、——礼儀ヲ尊ブニ就イテハ容止ヲ繕フ、容貌ヲ崩サヌ様ニスル「フキ」トカ「ウキ」トカ「ウェ」トカ云フ様ナ音、或ハ「キ」「ク」ト云フ様ナ音ハ唇ヲ余計動かスノデ、ソレヲ避ケル為ニカウナツタト云フ説デアリマス、何シロ王朝ノ世ノ中ニハ斯ウ云フ風ニ発音ガ変ハツテ来マシタノハ残ラズ書変ヘテアリマス、皆様御案内ノ通り其頃ノ書物ヲ御覧ニナレバ皆其通デアリマス、是ハ王朝ノ盛ナ時、言文一致デアツタカラ此姿デアル、学者ノ理窟ノナイ世ニハ斯様ニ自然ノ姿ニ変ハツタモノデゴザリマス然ル所後三条帝ノ御代アタリカラシテ又発音ガ変ハツテ来マシタ、ソコデ発音ガ変ハリマスルト同時ニ一方ニ文章ハ固定

シテ元ノ儘デ書キ話言葉ハ話言葉バカリ変ハルト云フヤウナ
 一種ノ風習ヲ起シマシテ、ソコデ文ト話ト別々ニナリ文章ハ
 学ンデ書カネバナラヌモノトナリ、是ニ於テ自然ニ仮名遣ト
 云フモノガ起ツテ来マシタ、崇徳帝ノ頃ノ藤原基俊ト云フ人
 ガ作りマシタ悦目抄、鎌倉ノ初メニ藤原定家卿ノ作りマシタ
 定家仮名遣、是等ハ前ノ発音トハズツト違ツテ居リマス、ソ
 レヲ見マスルニ其頃ノ発音ノ儘ニ書イタカラ違ツテ来タノカ
 ト思ヒマスルニサウデハナイ、定家仮名遣ノ中ニハ「ヲモム
 キ」ト云フトキニハ「ヲ」ト書クトカ「オモムク」ト云フトキニ
 ハ「オ」ト書クトカ「親子」ト熟語ニナルトキニハ「ヲヤコ」ト書
 キ、「親」トバカリノトキハ「オヤ」ト書クトカ斯ウ云フヤウナ
 コトニナツテ居テ更ニ学理モ根拠モナイモノニナツテ居リマ
 ス、所ガ此定家仮名遣ト云フモノハ殆ド一定シマシテ、明治維
 新頃マデ此規則ガチャント守ラレテ居リマシタ、シカシソレ
 ハ少数ノ京都ノ公家衆、堂上方ノ歌ヤ文ノ中ノ事デアツテ民
 間ニハ頓ト行ハレナカツタノデアリマス、ソコデ一方民間ヲ
 見マスルト鎌倉室町江戸ヲ経テ明治の現在マデ仮名遣ト云フ
 モノハ全ク乱難ナモノデ一定シタコトハ少シモナイ、ソレハ
 鎌倉以来ノ数百年ノ間ノ学者ノ作りマシタ書物或ハ小説浄瑠
 璃ノヤウナモノノ文ヲ御覽ニナリマスト能ク分リマス、殊ニ
 手紙ノ文ナドハ皆マチノニナツテ居リマス、現在デモ手紙
 ノ文ノ東ヘ西ヘト云フ「ヘ」ニ「江」ノ字ヲ用キテ居リ、「左様ニ

候ヘドモ」ノ「ヘ」ニ「得」ノ字ヲ書キマス、是等皆発音ノ儘デア
 リマス又現在市街ノ暖簾看板ノヤウナモノヲ見マシテモ尾張
 屋ト云ヒ近江屋ト云ヒ、又ハ採療治、泥鱸汁、鯨汁ナドト
 云フ、仮名遣ハ皆マチノニ少シモ一定シテハ居リマセヌ、
 ソレデ居テドウカ斯ウカ通ジテ居リマス、現在デモ新聞紙ノ
 上ニ時事新報ノ字音ノ振仮名、通信省ノ告示ノ停車場ノ地名
 ナドノ振仮名モ矢張発音ノ儘デ書イテアリ海軍ノ信号、電話
 ノ姓名帳ナドモ「オ」ト「ヲ」、「エ」ト「エ」ナドハ分ケマセヌデ
 一緒ニナツテ居リマス
 ソレデ仮名遣ヲ改定スルノハ国語ヲ乱ダストカ乱ダサヌトカ
 云フヤウナ説モゴザイマスガ、ソレガ何ヲ論拠トシテ乱ダス
 乱ダサヌト云フコトヲ言フカト云ヒマスレバ是ハ元祿年中ニ
 難波ノ契沖阿闍梨ガ唱ヘ出シマシタ、村上天皇ノ天曆以前ニ
 出来タ書物ニアル仮名遣ヲ採ルト云フ論拠デゴザリマセウ此
 仮名遣ガ、契沖ニ由ツテ初メテ世ノ中ヘ唱ヘラレマシタ、所ガ
 其頃此仮名遣ニ非常ナ反对ガアリマシテ、所謂堂上ノ公家衆
 ノ定家仮名遣ヲ守ツテ居ルモノナドハ無論ニ顧ミマセヌ、ソ
 レデ矢張御維新頃マデ定家仮名遣ヲ使ヒマシテ塙保己一ガ寛
 政年中ニ幕府ノ和学講談所ヲ建テマシタ時ニモ矢張定家仮名
 遣デナケレバナラナカツタ位ノモノデ、トント此契沖ノ唱ヘ
 タコトハ世間デハ用キマセンデシタ、併シナガラ民間ノ国学
 者ハ大分契沖氏ノ説ニ従ヒ始メマシタ、ソレハ此仮名遣ニハ

根拠ガアル、其根拠ト云フハ天曆以前ノ書物ヲ見マスルト小サイ方ノ「ヲ」ニハドノ書物ヲ見テモ「ヲ」ガ書イテアリマス、大キイ方ノ「オ」ニハドノ書物ニモ「オ」ガ書イテアリマシテ天曆以前ノ書物ニハ自カラ一定シテ居ル言文一致ノ世ニハ無論其筈デアリマスガサウイフ一ノ論拠ガアリマスルノデ是レガ学者ノ大層遵奉スルトコロニナリマシタ、併ナガラ契沖ノ唱ヘタノモ一方ニ定家仮名遣ト云フヤウナモノガアツテソレガ杜撰デアルカラシテソレヲ改メヨウト云フカラ起ツタノデアツテ詰リ仮名遣ト云フモノガアルカラソレヲ一ツ整頓シヨウト云フノデ別ニ仮名遣ト云フモノヲ立テタノデ発音ノ儘ニ書クト云フコトガ自然ノ道理ト云フヤウナコトニハ少シモ考ヘガ及バナカツタノデアリマス、ソレカラシテ契沖ガ唱ヘマシタコトガ段々ニ行ハレマシテ契沖カラ七十年ノ後楫取魚彦ガ古言梯ヲ作りマシタ、是ハ天曆以前ノ書物ニ依ツテ一々仮名遣ヲ調べタモノデアツテ、其外本居宣長ノ仮名遣ノ書物ナドモアリマス、ソレデス様ニ古書ヲ調べマシテ仮名遣ト云フモノノ穿鑿ガ段々進ンデ来マシテ天曆以前ノ仮名遣ト云フモノハ略ボマア一定シタヤウナモノニナリマシタ、併シ矢張少数ノ国学者ノ中デバカリ用キラレテ世間一般ニハ決シテ用キラレテ居リマセヌデシタ、明治ノ初メニ政府デ学制ヲ布カレテ契沖説ノ仮名遣デ教科書ヲ作ラレマシタ其時ニ先刻ノ江原サンノ御話ノアツタ掛図ヲ作ラレマシテ「イト」トカ

「キド」トカ云フコトヲ教ヘラレマシタ、ソレカラ教科書ニハ常ニ天曆以前ノ仮名遣ヲ使ヒマシテ、殊ニ新聞紙ノ上デハ明治ノ初メニ読売新聞デ鈴木田正雄ト云フ人ガ古言梯ノヤウナモノヲ座右ニ置キマシテ天曆以前ノ仮名遣ヲ用キルヤウニナリマシテカラ新聞紙ガ大分之ニ従フヤウニナリマシタ、併シナガラ民間ノ多数ハ矢張依然トシテ乱雜デアリマスソレデ此仮名遣ト云モノハ口デ「オー」ト云フノヲ「オフ」ト書キ「オホ」ト書キ「ヲウ」ト書キ「アフ」「ワウ」「ハウ」ト書ク斯ウイフヤウナノハ此諮問案ニモ沢山アリマス、実ニ煩雜ナモノデ先刻伊沢サンノ御話ニナツタ五千、七千位ハゴザイマセウ、ソコデ天曆以前ノ仮名遣ニ従フトナリマシテモドチラダカ分ラヌ言葉ガアリマス、鯨ノ「ヂ」「可笑」ノ「ヲ」「驕」ノ「オ」モ分ラヌ「用キ」ト云フ「キ」モ「キ」デアルカ「ヒ」デアルカ「俄」ノ「ワ」台所デ物ヲ洗フニ用キル「タワシ」モ「ハ」カ「ワ」カ分ラヌ、是等ニハ学者ニ両説ガアル、斯ウ云フノガマダアリマス、ソレカラ虫ノ「ゲヂゲヂ」ノ「ヂ」、泥鱈ドヂヤウノ「ヂ」モ「ジ」ダカ「ヂ」ダカ分ラヌ、狡猾ナコトヲ「ズルイ」ト云フモ、「ツ」デアルカフヤウナモノガ沢山アル、天曆以前ノ仮名遣ニ従フトシテモ天曆以前ノ書物ニ見エヌ語ガアツテ適従スルコトヲ知ラヌモノガ多イノデアリマス、然ルニ之レヲ発音ノ儘ニ書キマスナラバ更ニ少シモ苦勞ナク書カレマス

又仮名遣ヲ一ツニシマス同ジ発音ノ言葉ガ多クナツテ區別ガナクナルト申ス人ガアリマスガ、ソレヲ申シマスレバ天曆以前ノ仮名遣ニシテモ同ジコトデ「猪」モ「井」モ「藺」モ「牛」デアリマス、「尾」緒「男」小「皆」ヲ「デ」植エ「飢」エ「モ」エ「デ」アリマス此類ガ沢山アリマスカラ混雜スルト云フコトハ同様デアリマス、同ジ言葉ガ二ツアツテ間違ヘサウナレバ人間ノ智慧ト云フモノガ自カラアリマス支那ニ金山寺ト云フ寺ガアリ径山寺ト云ノガアリマスコレニ径径山コミチケンザン、金山山カナケント符牒ヲ付ケテ言ヒワケマス、公侯伯子男ノ「コウ」ガ二ツアルト「キミ公」ソロ侯「ナドト申シマス学校ニ」ワタクシリツ（私立）「イチリツ」（市立）ト云フ是等ハ甚ダシイ例デアリマスガ斯ウ云フ風ニ混雜スル言葉ガアレバ自カラ人間ノ智慧デ工夫付ケル能ク人ガ仁賢天皇、顕宗天皇御兄弟ノ御名前ノ弘計オケ、億計ヨケノ區別ガナクナルト申シマスガ、ソレハ日本書紀ニバカリ由ルカラデ古事記ニハ一方ヲ「オホケ」ト書イテアリマス、ソレニ依レバ仔細ハナイ、詰リ大小ノ意味デアリマス

又或論者ニナリマスト極ク根本ニ立入ツテ現在ノ人ノ発音ヲ直スガ好イト云フ説ヲ唱ヘマス、是レハ拙モ出来ル訳デハゴザイマスマイ、「ヲ」ヲ「ウオ」、「ヂ」ヲ「デイ」ト云フヤウナ発音ヲ人々ニ出サセルコトハ拙モ出来ナイコトト思ヒマス、ソレデ「ジ」「ヂ」、「ズ」「ヅ」ハ今、全国ノ人々八九分マデハ區別ガゴザイマセヌ、僅ニ土佐ノ国ト九州ノ端ノ人ノ発音ニ區別

ガ少シバカリ残ツテ居リマスガ、斯ウ云フ僻地ノ音ヲ用キルト云フコトハ如何ナモノデアリマセウカ、昨日渡部主事カラ御配賦ニナリマシタ、宮崎県ノ小学校ノ試験成績ノ中ニ発音ノ區別ガアルト云フ宮崎県デモ「ジ」ト「ヂ」ガ違ツテ居リマスカラ、発音ニ區別ガアルト云フ地方モアテニハナリマセヌソレカラ「カン」「クワン」、是レモ全国七八分出羽奥州、関東、東海道、五畿内、中国マデハ最早區別ガナクナツテ居リマス、ソレデ此「カン」「クワン」ヲ區別スルト云フ地方ノ人モ確カニ正シク區別スレバマダシモデゴザリマスガ、越後ノ人ナドニ了解ヲ「レウクワイスル」ナドト申シテ居ル人ガアリマシタ區別スルト云フ所ノ人ノ発音モアテニハナリマセヌ、ブリツキヘ食物ヲ詰メマス「罐」コレハ英語デ「カン」デアリマス、ソレヲ「クワン」ツメ「ナドト言ツテ居ル人モアリマス、出羽奥州ニ「ハ」「ヒ」「ヘ」ノ音ハナイ「フア」「フキ」「フエ」デアリマス、朝夕ノ発音ニコレヨリ外ハナイ、是レガ又日本ノ古イ発音デアリマスカラ是レモ正シイト言ハナケレバナラヌカラシテ右ノヤウナ「ヂ」「ジ」「ズ」「ヅ」「カン」「クワン」ト云フヤウナ僻地ニ残ツテ居ル音ヲ御採用ニナルヤウニナリマスレバ此「フア」「フキ」「フエ」ノ音モ採用シテ戴キタイト云フコトヲ申出ルカ知レマセヌケレドモ、是等ノ音ヲ用キルコトハ出来マスマイ、発音ノ區別ノアル所ノ區別ヲ無クスルノハ迷惑デアルト云フコトハ能ク人ガ申シマスガ、サウ申セバ反対ニ発音ノナ

イ所ノモノニ発音ノ區別ヲサセルト云フコトモ迷惑デアル、唯迷惑スル人民ノ多数少数ヲ考ヘナケレバナラヌ、ドウシテモ少数ノ所ハ犠牲ニ供セラレルト云フコトハ致シ方モアリマスマイ、又或ハ発音ノ區別アル所ハ地方限ノ学校ノ教授ノ上手心ニ何ントカ宜シイ方法モアリマセウ、詰リ其辺ダケデハ「ジ」「ヂ」、「ズ」「ヅ」ヲ書分ケテ手紙ナリ端書ナリヲ出ス、一方ニ區別ノナイ所ニ端書ガ来テ見タコロガ唯「ジ」「ヂ」、「ズ」「ヅ」ト一ツノ音ニ二ツノ文字ガアルト思ツテ見レバソレデ、通ジナイコトハアリマスマイ

余リ仮名遣ノコトデ専門ニ立入りマスルコトハ止メテ置キマスガ、右ノヤウナ混雜ガアリマスルデ仮名遣ハ発音ノマ、ニ一定シタイト思ヒマス

明治ノ御代ノ人々ガ御互ニ話ヲシマシテ、一方ノ人ノ口カラ発スル声ガ一方ノ人ノ耳ニ入りマシテソレデ意味ガ分ツテ居リマス、其発音ノ儘ノ言葉ガ即チ大日本帝国ノ言葉デゴザイマセウ、仮名遣ヲ改メレバ国語ヲ乱ダスト申シマスレバ五千万人ノ今日ノ日本人ガ国語ヲ乱シテ居ルト言ハネバナラヌ、日本ノ国語ヲ用キテ居ラヌト言ハネバナラヌ、ドウモサウ云フ道理ハナイト思ヒマス、人ニ生き死ニガアル通りニ言葉ニモ生き死ニガアル、活キテ居ル人ガ口ニハ活キタ言葉ヲ使ヒナガラ之レヲ書クトキニハ死ンデ居ル仮名遣ヲ用キルト云フコトハドウモ当ヲ得ナイコトデアラウト考ヘマス

ソレカラ次ニ字音ノ仮名遣ノコトヲ申シマス、此字音ノ仮名遣モ數百年間殆ド乱雜デ更ニ一定シテハ居リマセヌ今日カラ百五十年前延享年中ニ僧ノ文雄ガ磨光韻鏡ヲ作り続イテ安永年中ニ本居宣長ガ字音仮字用格ナドヲ作り文化天保ノ頃太田全齋ガ漢吳音図ヲ作り万延元年ニ白井寛蔭ガ音韻仮名用例ヲ作りマシテ段々研究ガ進ミマシテソレハ世間ニ発表サレテアリマス、是等ノ書物ヲ見マスルト字音ト云フモノハドウモ非常ニムツカシイモノデ、アナタ方モ無論御覽デゴザイマセウ、私共ハ見レバ頭痛ガイタシマス、ソコデ又現在無意識ニ御互ガ平生此字ノ音ハ斯ウ云フ音デアルトシテ用キテ居ル音ニ字音仮名遣ニ拠リマスト非常ナ誤リガ沢山アリマス、賢易ナドノ輸出輸入、此輸ノ字ニ「ユ」ト云フ音ハ無い、「シユ」デアル出モ出ルノ意ノ時ハ「シユツ」デアルガ出ストイフ時ハ「スキ」ノ音デ輸出ハ送り出ス意デアルカラ「シユスキ」ト言ハネバナラヌ、「シユスキ」(輸出)「シユニフ」(輸入)が何万円有ルナドト言ツテモ人ニ分ラヌソレカラ医者ノ療治ノ「注射」ノ射ハ弓術ノ時ニハ「シャ」デアリマスガ、射ルト云フ時ニハ「セキ」ノ音ニナリマス、医者ニ「チウセキ」ヲ頼ムナドト言ツテモ分ラヌ、直接間接ノ接ノ字ニモ「セツ」ノ音ハ無い「セフ」ノ音デアリマス、ソコデ待ノ字ヲ附ケテ接待スルト言フニハ「セフタイ」トナツテ音便デ詰ルコトガアリマスケレドモ応接、直接、間接ノ時ニハ「オウセフ」「チヨクセフ」「カンセフ」

ト言ハネバナラヌ、アナタト「チヨクセフ」ニ談判スルナドト
 言ツテハ分ラヌ、ソレカラ立ノ字モ「リツ」ト云フ音ハナイ
 「リフ」キリデゴザイマス、「リフハフ」(立法)ト云フ時ハ音便
 デ「リツパフ」ト云フモ宜シウゴザイマスガ、独立自立ト云フ
 時ニハ「ドクリフ」「ジリフ」ト言ハネバナラヌ、雑ノ字モ「ザ
 フ」ノ音ホカナイ、雜誌ト云フ時ハ宜イガ混雜ハ「コンザフ」
 ト言ハネバナラヌ、飯ヲ食フコトヲ喫飯(キツパン)ト云ヒ烟
 草ヲ飲ムコトヲ喫煙(キツエン)ト云ヒマスガ、喫ニ「キツ」ノ
 音ハナイ「ゲキ」デアリマス是カラ「ゲキハン」スル、或ハ「ゲ
 キエンハ無用」ナドト言ツテモ分ラヌ是等ノ類ガ沢山アル併
 シ是等ハスベテ日本ノ字音トシテ用キテ差支ヘナイ、今更改
 メルコトモ出来マセヌ、是ハ諸君モ御同感デゴザリマセウ、
 サウナリマスルト字音假名遣ノ規則ト云フモノハ先ヅ破レテ
 仕舞フ

諸先輩ガ定メタ字音ノ規則ニ依ルトシマシテモマダ決マラヌ
 ノガアリマス、烏帽子ノ烏ナドモ「エ」カ「エ」カドツチカ分ラ
 ヌサウ云フ分ラヌノモマダアリマス、又字音ニハ字ニ因ルト
 漢音ト呉音ト二ツアルノガアリマス、法ノ字ハ漢音デハ「ハ
 フ」呉音デハ「ホフ」デアアルカラ法律ト云フ時ニハ「ハフリツ」
 ト書キ法名ハ「ホフミヤウ」ト書カネバナラヌ、尚ト云フ字モ
 漢音ハ「シヤウ」呉音ハ「シヨウ」デアリマスカラ高尚ナ教育ナ
 ドト云フ時ニハ「カウシヤウ」デ一休和尚ナドト云フ時ハ「オ

シヨウ」トセネバナラヌ、是等ハ無数デ有リマス、ソレカラ平
 声上声去声中ノ十一真、十二文、十三元、十四寒、十五刪、
 一先ノ六韻ノ字音ハ「シヌ」「ブヌ」「ゲヌ」「カヌ」「サヌ」「セヌ」
 (舌内音)デ十二侵、十三覃、十四塩、十五咸ノ四韻ノ字音
 ハ「シム」「タム」「エム」「カム」(唇内音)ト書カネバナラヌ、
 ダカラシテ「山」ハ「サヌ」、「三」ハ「サム」ト書カネバナラヌ又
 「カイ」「タイ」「セイ」ナド云フハ「イ」ノ音デ「ルキ」トカ「スキ」
 トカ「ズキ」トカ云フ「ウクスツヌフムユルウ」ノ下ナノハ「キ」
 ト書カネバナラヌデ非常ナ面倒ナモノデアリマス、ソレカラ
 同ジ「シヨウ」ト云フ発音デモ「シヤウ」「シヨウ」「セウ」「セフ」
 ガアリ同ジ「チヨウ」ノ発音デモ「チャウ」「チヨウ」「テウ」「テ
 フ」ガアリマシテ、ソレガ残ラズ濁リマス「ジヨウ」ト云フ
 音ガ八通りニナリマス其外議案ニモ沢山見エマス通り非常ナ
 区別ノアルコトデアリマス

ソレカラシテ能ク人ガ漢字音ハ覚エルニ左程ムツカシク無イ
 ソレハ偏カ旁カガ同ジ形ノ字デアレバ大抵同ジ音ダカラ類推
 シテ覚エルコトガ出来ルト申シマスガ決シテサウデハゴザリ
 マセヌ、先ヅ術ハ「シユツ」ノ濁リデアリマスガ、術ノ字ノ右
 ト左トヲ取ツテ真中文ノ朮(をけら)ハ「チユツ」ノ濁リデアリ
 マス、述ハ「シユツ」ノ濁リデ忱惕惻隱ナドノ忱ハ「チユツ」ノ
 濁リデ、同ジ忱ガ「イザナフ」ノ意トナレバ「シユツ」デ濁ラ
 ズ、同ジ忱ガ「クルフ」ノ意トナレバ「キツ」ノ音トナリマス、

又辱ハ「シヨク」ノ濁リデソレニ衣偏ヲ附シテ褥(シトネ)トナルモ「ジヨク」デアルガ同ジ衣偏ノ字デモ意味ガ変ツテ子供ノ着物ノ意トナルトキニハ「ヂヨク」ニナル、ソレカラ寺ト云フ字ハ「ジ」デアリ侍モ「ジ」デアリマスガ、病垂ヲ附ケテ痔トナリ手偏ヲ附ケテ持トナルト「ヂ」ニナリ、待ハ「タイ」トナリマス、又女ノ字ハ「ヂヨ」デアルガ「汝」ニナルト「ジヨ」ニナリ徐ハ「ジヨ」デアルガ除ハ「ヂヨ」デアリマス、「襄」ハ「ジヤウ」デアアルガ女偏ニシタ嬢ハ「ヂヤウ」ニナリマス是等ニ土州ヤ九州辺ノ「ジ」ト「ヂ」ヲ區別シテ発音スルト云フ地方デモ一々書物ニ拠ツテ其字毎ニ調ベナケレバ區別ハ出来マイト思ヒマス、其他、周ハ「シウ」デ調ハ「テウ」デ惆ハ「チウ」デ惆ハ「テキ」デアアル、専ハ「セン」デ伝ハ「デン」デ軫ハ「テン」デ搏ハ「タン」トナル、毎ノ字モ「マイ」デアリマスガ海ニナルト「カイ」トナリ梅ハ「バイ」デ侮ハ「ブ」トナリマス、相ノ字ハ木偏ニ目デアリマスカラドツチヲ見テモ「モク」ト言ハネバナラヌガ是ガ「サウ」デアリマス、偏旁デ推シテ字音ヲ誤ルヲ百姓読ト云ツテ人ガ嗤ヒマス類推ト云フコトハ危イ事デアリマス

字音ノコトモマダ申シタウゴザリマスガ専門ニ渉ルコトハ止メマス

ソコデ字音ヲ知ルニハドウシタラ宜イカト申シマスト詩ヲ作ルコトヲ学ンデ平上去入ノ百六韻ニ分属スル文字ヲ知ル外手段ハ無い、併シ人毎ニ詩ヲ作ラセルト云フコトハ拙モ出来ナ

イ又詩ヲ覚エタ所デ数千字音ヲ一々覚エルコトハ極メテムツカシイドウシテモ字音ト云フモノハ如何ナ学者デモ字毎ニ其筋ノ書物ニ拠ツテ引カネバナリマセヌ

支那ノ字音ヲ區別シテ何カ益ガ有ルカト言フニ「シヤウ」ト云フ字モ沢山アリ「シヨウ」モ沢山アリ「セウ」モ「セフ」モ沢山アリマスカラ目印ニモ何ニモナリマセヌ、支那人トノ通弁ニ使フ利益デモアルカト云フニ此儘デハ通弁ハ出来マセヌ、幾ラカ姿ニ似通ツタ所ハアリマスケレドモ決シテ此音デ通弁ナドガ出来ルモノデハアリマセヌ、區別ノ標準ニモナラズ、苦シクデ區別シテモ何ノ必要モ無い

字音ト云フモノハ固ヨリ支那ノ原音デアルガ之ヲ書變ヘタ所デ差支ハアルマイト思ヒマス、英吉利ノ地名ニ「ウオーセスター」ト云フ処ガアリマスガ之ヲ「ウースター」ト発音シマス、日本デモ「ウースター」ト発音ノ儘デ翻訳シテ元ノ綴リニハ拠リマセヌ亞米利加ノ川ノ名ニ「ミスシスシツピ」ト云フ処ガアリマス之ヲ「ミツシツピ」ト発音イタシマス、ソノ発音ノ儘ニ翻訳シテ少シモ差支ハナイ、「イングリシ」ヲ「イギリス」トシ「ホルランド」ヲ「オランダ」トスルモ常ノ事デアリマス、又西洋人ガ日本ノ言葉ヲ写シマスニモ決シテ仮名遣ニハ拠リマセヌ発音ノ儘ニ写シマス、ソレデ互ニ意味ノ分ラヌコトハアリマセヌ、要スルニ学者ガ大層骨ヲ折ツテ研究シタ漢字ノ字音モ世間ニハサツパリ行ハレテ居ラズ、相応ナ学者モ守ツテ居

ラヌト云フコトハ明カデアリマス

詰ル処此処ニ一篇ノ日本ノ仮名文ヲブツツケニ書イテ一字モ仮名遣ヲ間違ヘナイト云フハ非常ナ学者デ無ケレバ出来ナイ、又此処ニ一篇ノ漢文ヲ出シテソレヘブツツケニ片端カラズツト字音ノ振仮名ヲシテ一字モ間違ヘナイト云フハドウモ大変ナ学者デ無ケレバ出来ヌコト、思ヒマス

斯様ナ次第デアリマスカラ国語仮名遣モ字音仮名遣モ古イ所ニ拠ラセルト伝フコトハ非常ニ難イコトデアラウト思ヒマス、英吉利仏蘭西デモ言葉ノ綴リノ六ツカシイノニハ困ツテ居リマシテ学者ガ之ヲ改メヨウト掛ツテ居リマスガドウシテモ行ハレマセヌ、行ハレナイ道理ハアチラデハチャント仮名遣ガ一定シテ居リマシテ学校教育デモ教科書デモドノ書物デモ少シモ違ハヌ、全ク揃ツテ居ツテソレガ数百年間ノ習慣デアリマスカラ改メルコトガ難イノデアリマス、日本ノ仮名遣ハ数百年來区々デ來テ今日デモ区々デドツチヲ書イテモ人ガ頓着シナイ、改正ト云ツテモ何デ是ガ改正デアルカト云フ風ニ見ル位デアリマスカラ此乱雜ヲ一定スルニハ言葉ガ變ハレバ文字モ變ハルト云フ昔ノ誠ニ好イ平安朝ノ習慣ニ倣ツテ明治ノ今日ハ発音ノ儘ニ一定スルノハ今現在此時デアリマセウト思ヒマス

数十年学ンダ者デモ仮名遣ハムツカシイ甚ダ恐レ入ツタ申シ言デハアリマスルガ此処ニ御集リニナツテ居ル御方々デモ仮

名遣ヲ一字モ違ヘズニ一篇ノ文ヲ御書キニナルト云フコトハドウモ御出来ニナルマイト考ヘマス、ソレヲ僅カ六年ノ義務教育ヲ終ヘタバカリデ世間ニ立ツト云フ大々多数ノ人々ニ無理ニ教ヘルト云フコトハドウ考ヘテモ私ニハ感服ガ出来マセヌ又逆モ教ヘ切レルモノデハゴザイマセヌ、小学ノ生徒デハ無イ教員ガ出来マイト思ヒマス、ダカラ殆ド覺エ切レナイ半熟半端ノ教育トナツテ何ノ益モナイ、ドウシテモ御改メニナルベキモノト思ヒマス、サウシテ書クニハ発音ノマ、ニ書クガ古イ書物ヤ其他ニハ「コウ」ト云フ音ヲ「カウ」ト書キ「シヨウ」ト云フ音ヲ「セウ」ト書イテアルノモアルトソレ〴〵ニ教ヘルヤウニスレバヨロシイ、書クト読ムトニハ自ラ難イ易イガゴザリマス

今日ハ台湾朝鮮滿洲其外ヘモ日本ノ言葉ヲ弘メネバナラズ、又外国人ニモ学バセネバナリマセヌ、ソレニ発音ト文字トガ變ハツテ居ルト云フコトハドウモ不都合デアアルマイカト思ヒマス
昔ノ通信ハ早追駕籠カ飛脚デアリマシタ、ガソレガ今デハ汽車、電車、電信、電話ニナツテ居リマス然ルニ通信ノ第一ト云フ文字文章ハ明治四十一年ノ今日マデ少シモ手ガ附カズ昔ノ駕籠飛脚ノ儘デ居リマス、何事モ改良スル我邦ガ知識ヲ伝ヘル唯一ノ道具ヲ旧トノ儘ニシテ少シモ手ヲ着ケヌト云フコトハ甚ダ当ヲ得ナイ不思議ナコト、考ヘマス

ソコデ古い仮名遣ハ中等教育高等教育ニハ無論学バセネバナ
ラヌ、先ヅ幾千萬有ル古い書物ヲ読マセネバナラヌ、又歌ヲ
咏ムトカ古い姿ノ和文ヲ書クトカ云フ人国語ヲ研究スル人ニ
ハ勿論デ仮名遣ガ新タニナレバ古い仮名遣ハ衰ヘル気味ニナ
リマセウカラ益々之ヲ将励シテ教育ヲ維持シナケレバナラ
ヌ、斯ク申ス私ナドモ己レ一個ノ専門トシテハ天曆以前ノ仮
名遣モ研究イタシマセウ鎌倉室町江戸時代ノ仮名遣モ研究イ
タシマセウ、ソレハ国語ノ上ノ専門ノ事デアツテ必要ナコト
ハ論ズルマデモアリマセヌガ唯々世間普通ノ者ニ施行スルト
云フコトハ今ノ世ノ中ニハ如何カト思ハレマス、詰リ日本ハ
丁度伊太利ノヤウナモノデ伊太利人ハ羅甸人ノ子孫デアリマ
スガ現在ハ新シイ言葉ニナツテ居リマシテ古い言葉ハ羅甸語
トシテ研究シテ居リマス、我ガ日本モサウ云フ工合ニイタシ
タイト思ヒマス、今ハ各国ノ言葉サヘ研究スルト云フ時デア
リマスカラ己ガ国ノ古い言葉、仮名遣ハ無論之ヲ研究セネバ
ナラヌ、高等教育ニハ無論ノ話デアリマス、サウシテ字引ノ
中ノ言葉ノ語源ヲ記ス処ニ古い仮名遣ヲ書イテ置キマスレバ
何時マデ経ツテモ滅ビル気遣ハアリマセヌ

右ノ次第デアリマスカラ仮名遣ハ今ガ改良スベキ丁度好イ時
デアラウト思ヒマス、尚改良ノ程度ニ至ツテハ御協議ノ上デ
アリマスシ、尚又原案ノ逐条ニ至ツテ述ベルコトガゴザイマ
セウ先ヅ愚見ハ是丈ケデゴザイマス